

CBD SBSTTA-25 サイドイベント: 侵略的外来種による悪影響の最小化に向けた国際協力の強化

2023 年 10 月 15 日 13:15～14:45(アフリカ東部時間: GMT+03:00)、ケニア・ナイロビ国連事務所

主催者: 日本国環境省、英国環境・食料・農村地域省(DEFRA)、国際自然保護連合(IUCN)

YouTube 配信アーカイブのリンク: < <https://www.youtube.com/watch?v=RqczMEIEILI&feature=youtu.be> >

要約

概要

侵略的外来種(IAS)は、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学—政策プラットフォーム(IPBES)の「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」¹に反映されているように、世界の生物多様性損失の主な直接要因の1つであり、その悪影響は世界的に強まっている。セクターや政府機関を超えた協力体制の強化が強く求められてもおり、昆明・モンリオール生物多様性枠組(GBF)²では、ターゲット6として、2030年までに侵略的外来種の導入・定着率を50%削減することを目指している。また、「侵略的外来種とその管理に関するテーマ別評価報告書 (IAS 評価報告書)」³も最近発表された。

2023年4月に日本で開催されたG7気候・エネルギー・環境大臣会合⁴においては、IASに対処する必要性が強調され、国際協力の強化に関する一連の推奨事項を作成することについて決定された。これにより、本サイドイベントを含む3つのイベントが他の政府、関連国際機関、ステークホルダーとの意見交換の場として設定された。主催者(日本環境省、英国環境・食糧・農村地域省(DEFRA)、国際自然保護連合(IUCN))に加え、生物多様性条約(CBD)事務局、英国外来種事務局(GB Non-native Species Secretariat)、ニュージーランド政府、南アフリカ政府の代表者とIPBES評価共同議長が登壇して、ターゲット6の達成に向けた各国の経験を共有し、国際協力を強化し様々な民間参画を促進するために必要な行動について議論した。

¹ IPBES 生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書、<https://www.ipbes.net/global-assessment>

² 昆明・モンリオール生物多様性枠組、<https://www.cbd.int/doc/decisions/cop-15/cop-15-dec-04-en.pdf>

³ IPBES 外来種とその管理に関するテーマ別評価報告書、<https://www.ipbes.net/ias>

⁴ G7 気候・エネルギー・環境大臣コミュニケ、<https://www.meti.go.jp/press/2023/04/20230417004/20230417004-1.pdf> (原文); <https://www.env.go.jp/content/000163420.pdf> (日本語仮訳)

趣旨説明及び開会挨拶

趣旨説明

中尾文子氏 日本環境省自然環境局 生物多様性情報分析官

中尾氏はまず、IAS の脅威が GBF のターゲット 6 の背景にあることを指摘し、IPBES の IAS 評価報告書が発表されたことについて言及した。次に G7 議長国としての日本国の役割に触れ、今回のイベントを含む一連の IAS 関連イベントが開催され、G7 メンバー間で一連の推奨事項が作成されていると述べた。また、日本が IPBES の IAS 評価の技術支援機関 (TSU) をホストしていること、さらには、民間部門との関係を構築するための法改正を行ったことを説明した。今回のサイドイベントは日本の環境省が英国の DEFRA および IUCN と共催していることを述べ、プログラムの概要を説明した。

開会挨拶

ジェーン・ストラトフォード氏 DEFRA 国際生物多様性室長

ストラトフォード氏は、このイベントには各国の興味深い視点が含まれると述べ、CBD COP-15 の重要性、そしてその成果を実施するために最善を尽くすことの重要性を表明した。英国は生物多様性国家戦略(NBSAPs)と国家政策をターゲット 6 を含む GBF と整合させていると述べた。日本が IAS に関する国際的な対話の場を提供したことに謝意を表し、今回のサイドイベントはそのための橋渡しになると述べた。

侵略的外来種に関する最近の進展

IPBES IAS 評価報告書の主要メッセージ

ヘレン・ロイ氏 IPBES 「侵略的外来種とその管理に関する評価」共同議長

ロイ氏は、IPBES の IAS 評価は、生物多様性損失の主要な直接要因としての IAS の脅威の大きさを示す初めての包括的なアセスメントであると強調した。評価報告書の中で、外来種と IAS を定義し、世界中で約 37,000 種の外来種が定着し、毎年約 200 種の外来種が新たに記録されていると述べた。そのうちの約 3,500 種が IAS であり、約 2,300 種が先住民や地域コミュニティの土地に生息している。この評価によって、現在の政策では IAS への対策が不十分であること、自然に最も依存している人々が、IAS によって不均衡な影響を受ける可能性があることが示されたと説明した。また、世界の種の絶滅の 60% が IAS によって、あるいは部分的に引き起こされたものであること、IAS の世界的な年間コストは 2019 年には少なくとも 4230 億米ドルに上ること、IAS が自然と良質な生活に与える影響の 85%、自然の寄与に対する影響の 80% が悪影響であることを述べた。加えて、現在の傾向が変わらなければ、2050 年までに IAS の数は少なくとも 2015 年より 30% 増加すると予想されているが、他の要因も悪化し相互に影響しあっているため、この数字は過小評価であると考えられることを述べた。次にロイ氏は、IAS 評価報告書では、解決策と選択肢を提示しているが、その中でも最も重要なのは予防であり、緊急かつ持続的な行動の必要性を裏付ける十分な証拠が示されていること、長期的な取組と資源があれば、IAS の防除と管理は達成可能

な目標であり、統合されたガバナンスによって前進を遂げることができること、GBF のターゲット 6 や多くの SDGs に対して前進を遂げるための証拠、批判的分析、選択肢を様々なステークホルダーに提供することを目的としていると述べ、最後に評価に携わったすべての人々に謝辞を述べた。

ターゲット 6 の達成と条約の下での関連作業における国際協力の重要性

マリアネラ・アラヤ・ケサーダ氏 CBD 事務局 侵略的外来種/生物多様性・保健担当官

アラヤ・ケサーダ氏は、IAS に関する CBD の活動の一部を紹介し、GBF のターゲット 6 を達成するためには政府全体と社会全体のアプローチによる協力が必要であると強調した。また、科学と技術革新はさまざまな種類の知識を活用する必要がある、情報共有、意識向上、資金調達的重要性を指摘した。必要な協力の具体例として、IAS に関する機関間リエゾングループ（Inter-agency Liaison Group on Invasive Alien Species）を挙げ、締約国が事務局に一連の要請を実施する権限を与え、そのほとんどが連絡グループと協力して実施されたと説明した。締約国からのその他の要請には、既存のキャパシティとニーズの評価、既存の知識ギャップの評価、モニタリングと管理、CBD の IAS ツールキットの更新と追加トレーニング資料の作成などが含まれると述べた。また、IPBES の IAS 評価の重要性を強調し、CBD は様々な形で協力できると述べた。最後に、IPBES IAS 評価を含め、IAS は CBD の議題の一つであると述べた。

IUCN による侵略的外来種に関する取組について

ケビン・スミス氏 IUCN 侵略的外来種担当官

スミス氏は、IUCN とその IAS 専門家グループ、そしてパートナーが、愛知目標 9、そして今回の GBF ターゲット 6 に向けて、いかに IAS に関する作業を支援してきたかについて語った。この支援には、侵入生物データベース（GISD）⁵、導入経路分類スキーム、世界導入・侵略種登録（GRIIS）⁶、外来種の影響を評価する手法（EICAT）⁷、SDGs のための IAS 指標などの開発が含まれる。また、IUCN は IAS に関する多くのガイダンス文書を作成し、行動規範や CBD の IAS 経路分類の解釈に関するガイダンスも作成していると述べた。また、資金調達次第ではあるが、IPBES の IAS 評価で報告された 3,500 種の IAS を評価し、IAS 管理措置の有効性と導入経路に関するデータベースを開発し、リスク評価をより利用しやすく、各国が IAS に焦点を当てた NBSAP を策定するのを支援し、民間部門と協力していきたいと説明した。

各国の経験

英国: ターゲット 6 は実現可能か? 英国と海外領土からの教訓

ニール・ムーア氏 英国外来種事務局 事務局長

⁵Global Invasive Species Database, <http://www.iucngisd.org/gisd/>

⁶Global Register of Invasive Alien Species, <https://griis.org>

⁷Environmental Impact Classification for Alien Taxa, <https://www.iucn.org/resources/conservation-tool/environmental-impact-classification-alien-taxa#:~:text=The%20Environmental%20Impact%20Classification%for,living%20outside%20their%20natural%20range..>

ムーア氏によると、イギリスには約 2,000 種の外来種が生息しており、毎年 12 種ずつ増加している。また、これらの約 10%が侵略的であり、その直接的な年間コストは約 20 億ポンドと推定される。彼はまた、IAS に対応する様々な機関の調整を担う小さな事務局をいかにして設置し、予防に重点を置いた統一戦略に統合されたかについて説明した。最新の戦略では、資源が圧倒的に不足してはいるものの、イギリスの IAS へのアプローチを合理化する方法が特定されたことや、外来種検査局が設置され、例えば、毎年英国に持ち込まれる汚染されたボートやコンテナは、費用対効果の高い IAS 導入防止の大きな可能性を秘めていることがわかったこと、また、アカオタテガモ (American ruddy duck) の防除や、英国の生物多様性の 90%以上が生息する英国海外領土におけるバイオセキュリティの改善など、心強い事例も紹介した。ムーア氏は、IAS に対処するために必要なのは、協調、より多くの資源、より良いバイオセキュリティ、そしてより大きな野心であると結論づけた。

ニュージーランド: 6 つの挑戦: アオテアロア・ニュージーランドの経験と抱負

ダニカ・ステント氏 ニュージーランド政府自然保護局 国際政策部長

ステント氏は、島国であるニュージーランドの生物多様性は、IAS に対して特に脆弱であると指摘した。そのため、ニュージーランドは IAS に関する厳しい法律を設け、その調整には困難を要するものの、導入を防止することが最も安価であり第 1 の防衛策だとして取り組んでいる。例えば、ニュージーランドは国際船による貿易に依存している訳だが、この国際船が船体付着物の主要な媒介物であるとの認識の下、船体付着物の規制を策定した最初の国となったことを説明した。出港前処理、サーモグラフィ、探知犬、啓発キャンペーンなど多くの対応により、これまでにクサギカメムシ (brown marmorated stink bug) の侵入を防ぐことに成功していることに加えて、ニュージーランドの 120 の離島から捕食動物を駆除したという。ステント氏はまた、2050 年までに最も有害な侵略的哺乳類種を駆除するという野心的なプログラムがあり、現在多くの市民の支援と参加を得て、都市部と本土での駆除に注目が集まっていることを説明し、新しいツールや手法、国際的なパートナーシップの重要性を強調した。ニュージーランドは、国際的な協力関係や研究から支援を受け、IAS 問題に貢献している。太平洋地域外来種管理支援サービス (PRISMSS) を通じて、環境と社会に幅広い恩恵をもたらし、気候変動に対する島の回復力を高めるためのネズミの根絶など、小島嶼開発途上国への支援に力を入れている。

南アフリカ: 南アフリカにおける生物学的侵略の管理と制御のための科学—政策の実施

バーニー・クゴペ氏 南アフリカ共和国政府 林業・漁業・環境局 生物多様性リスク管理部長

クゴペ氏は、科学—政策の実施におけるパートナーシップの必要性を強調した。南アフリカには 2,000 種以上の外来種、700 種以上の IAS、388 種の帰化種、355 種の (帰化していない) 外来種が存在すると述べた。また、南アフリカの包括的なアプローチは、研究、政策、実施から構成されていると説明し、各国は GBF ターゲット 6 に基づく国家目標を策定する必要がある、それは他の GBF ターゲットにも貢献し、影響を受ける可能性がある」と指摘した。また、南アフリカの新たな白書の誕生を機に、生物多様性法が改正され、IAS 管理に役立つ規制が盛り込まれたと述べた。この白書には、外来種の侵入に関連する期待されるアウトプットとアウトカムのリストが含まれており、気候変動が IAS に及ぼす影響を調査する

必要性が指摘されている。南アフリカは現在、侵略的外来種国家戦略と行動計画を最終化している最中であり、これによって新たな白書と法制度の展開が可能になる。また、南アフリカが 23 の GBF ターゲットをどのように整合させたかについて説明した。GBF ターゲットを白書の 4 つの目標に合わせ、首尾一貫した実施計画を作成し、地球環境ファシリティ第 7 次増資（GEF-7）の IAS プログラムにより、南アフリカは国境での IAS の防除を試験的に実施していると述べた。

質疑応答

[ファシリテーター] 中尾文子氏 日本環境省、ピエロ・ジェノベジ氏 イタリア環境保護研究所(ISPRA) 野生動物事業長

総括として、ジェノベジ氏は、セクター横断的なアプローチという共通のニーズと課題に言及し、この G7 のイニシアティブに参加できることを喜ばしく思うと述べるとともに、このイニシアティブが IAS 対策において他国を支援できる可能性を示唆した。そして、質疑応答が行われた。

CBD 元事務局長のブラウリオ・ディアス氏は、IAS の管理において、新たな気候条件への適応についてより議論をすべきかと質問した。これに対しジェノベジ氏は、準備の手段として、次の IAS となりうるものをモデル化する作業が進行中であると述べた。

ASEAN 生物多様性センター(ACB) 開発と実行プログラム局長のクラリサ・C・アリダ氏は、民間部門との連携、技術や情報の重要性についてコメントした。これに対し、ジェノベジ氏は、この点は G7 会合でも議論されており、CBD の決議の中でも強調される可能性がある指摘した。

CBD 事務局のアナ・イザベル・ゴンザレス・マルティネス氏は、IAS の重要性を一般に認識させ、利害関係者をまとめることの難しさを指摘した。ジェノベジ氏は、メディアに関しては、IPBES の IAS 評価がその解決に役立っていると述べた。

Island Conservation のキャロリーナ・トレス・トゥルエバ氏は、「技術革新と研究」にあまり焦点が当てられていないと指摘した。これに対し、ジェノベジ氏は、IPBES の評価ではこの点に関する作業が行われているが、リスクの評価と IAS に対処するためのツールの開発のバランスをとることは可能であると指摘した。

閉会挨拶

中尾文子氏 日本環境省

最後に、中尾氏は、日本が 11 月に G7 メンバー会合を開催し、IAS 問題への対処方法についてさらに議論を深め、推奨事項を完成させたいと述べた。また、その推奨事項を CBD コミュニティの間で共有したい、加えて、今回のサイドイベントの主要なメッセージについて G7 メンバーとも共有したいと述べるとともに、最後に、参加者とジェノベジ氏の積極的な参加に謝意を表した。